

千年の森便り No.126

2014.3.20

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.digi2.jp/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

3月16日(日) 晴

参加は伊藤、岩崎、鶴沢、大原、久我、坂本、福島、松田、真鍋、山口、君津市広報誌を見て体験参加の小野、安藤さん。この日開催されたヒメコマツ観察会のためヒメコマツ研究グループの藤平先生はじめ尾崎、遠藤、小森谷さん、観察会参加者の来訪もあり、総勢20人。前日までの厳しい冬を終え、明るい春の陽光を浴びて、ヒメコマツの観察会、ニホンジカ調査、シイタケ・ヒラタケの植菌、植物観察など楽しみました。3千本の菌駒植菌を終了出来るかどうか危惧されましたが、参加の皆さんの働きで完了しました。11月の伐採以来、目白押しの作業を全て終え、今年度の計画を完結出来たのは会員各位のご協力の成果です。(真鍋)



明るい春の陽光を浴びて

○ヒメコマツ観察会

ヒメコマツの観察会にご協力いただき、ありがとうございました。当日は晴天に恵まれ、5名の参加者の方々と、まずは豊英湖のほとりにあるヒメコマツの自生個体を観察しました。講師(藤平量郎:房総のヒメコマツ研究グループ代表、尾崎煙雄:千葉県立中央博物館主任上席研究員)からはヒメコマツは寒冷期の遺存植物であること、病気等の影響で生育数が急激に減少したことについて説明がありました。

その後、豊英島に移動し、植栽したヒメコマツの成長調査を行いました。参加者の方々にとっては慣れない作業でしたが、手際良く調査することができました。

調査の結果、平均樹高は、平坦な植栽地では119.8cm、斜面の植栽地では88.1cmでした。

平均成長量は、平坦な植栽地では24.1cmで昨年と同程度でしたが、斜面の植栽地では26.4cmで、昨年の成長量7.9cmと比較すると、大きく成長していました。

(森林研究所 小森谷研究員)



自生地のヒメコマツ観察



豊英島植栽地で測定前の説明

○ニホンジカ生息状況調査

10:05から約40分間、いつものように7コースに分かれて島内を一斉に踏査し、ニホンジカの生息状況調査を行いました。結果は、前回に引き続きニホンジカの目撃、足音、声などは確認できませんでした。今回は新しいフンや足跡も確認できず、この時期はニホンジカによる島の利用頻度が低い可能性があります。(福島)

○野鳥記録

昨シーズンは普段見られない種類が渡来して野鳥の当たり年でしたが、今年はその反動なのか冬鳥の種類が多くありません。

オシドリ声 カワウ1 トビ5+声 コゲラ声 カケス声 ハシブトガラス2 ヤマガラ2+声
シジュウカラ声 ヒヨドリ声 エナガ2+声 メジロ声 カワラヒワ声 以上12種 (坂本)

○シイタケ・ヒラタケ植菌

好天気の下、コナラのホダ木に植菌作業をしました。シイタケ「にく丸」、シイタケ「夏実」、ヒラタケ「39 号」各 1,000 駒。植菌したホダ木は、にく丸 55 本、夏実 36 本、ヒラタケ 39 本。

植菌方法は、縦方向に両端 7cm から 25cm 間隔で 4 駒打ち、次に両端から 20cm から 25cm 間隔で 3 駒とし、円周方向に 5cm 間隔で千鳥型に打つのを基準としました。計算では、ホダ木が余ると思われたので、粗めに設定しました。しかし、実際

は夏実やヒラタケは基準より密に植菌してあります。植菌が終わったホダ木は、別々に直射日光があまり当たらない木陰に仮伏せ（井桁状）しました。

作業開始時には、4名で2グループに分かれて始め、発電機のトラブル等があり、作業を終えることが出来るか不安があったが、午後は全員の協力で無事作業を終了する事が出来ました。ご協力頂いた皆様に感謝します。体験参加の小野さん、安藤さんも良く働きました。収穫期にも是非来て下さい。（久我）



ドリルで開孔-木槌で駒打ち-運んで仮伏せ

○シイタケ収穫

シイタケを収穫しました。肉厚のドンコが沢山採れ、9kg ありました。昼に松田さんの調理で食感と香ばしい味香りをたっぷりと賞味し、お土産いっぱい持ち帰りました。（久我）

○植物観察

ニホンジカ調査中に、島の北側（祠山裏）の斜面でスハマソウ 4 輪開花、禁断の岬でヒメフタバランのつぼみを確認しました。また北側湖岸のスハマソウ自生地をくまなく探して、花一輪見つけました。この森で活動始めた頃、足の踏み場に困るほど森中にあったシュンランは植生保護柵内にのみ健在でした。（福島・真鍋）



ヒメフタバラン(福島)



スハマソウ(福島)



シュンラン(真鍋)



コナラの芽生え(坂本)

○大雪の被害と対応

2 月の 2 度の大雪は、千年の森にも大きな被害をもたらしました。常緑広葉樹は太い枝が折れて散乱しており、スギ・サワラ・モミなど針葉樹の倒木、幹折れも目立ちます。特に 2 度目の雪が雨を含んで非常に重くなったことが被害を大きくしたものと思われます。巨木林で折れたモミの木の先端が上下逆に地面に突き刺さっている場面に出くわした時はしばし状況を理解出来ませんでした。周遊路周辺の危険木や落下枝など早急に対応したいと思います。また、食害防止ネットも支柱が曲がったり、ネットが外れ掛かるなどの被害を受けましたが、鶴沢会員が一通りの補修をしてくれましたので、ネット内の植物が食害を受ける心配はとてあえず無いものと思います。（伊藤）



あちこちにスギやモミの倒木・幹折れ

○造材作業

大原さんは伐採木の造材作業を行い、木工用に玉切りしました。植菌作業に合流したため、僅かしか出来ていません。2月に設置した保護柵内にはホダ木にしなかった伐採材が沢山ありますので、4月以降木工に適する材も、適しないものも玉切りして搬出が必要です。(真鍋)



保護柵内には沢山の伐採木が
松の幹に出べそ！(福島)

センサーカメラの動物(坂本)



冬毛のタヌキ(3月5日)



シイタケを食べるシカ(3月14日)



ヒトクチタケ(幼菌)

枯れた松に出てくるきのこです。

リスの巣作り？とエビフライ

ニホンジカの生息状況調査中に、真鍋さんがコナラ更新林近くで樹皮がはがされているスギを確認しました。その後、坂本さんがその近くのもみの木の上(約8m高さ)に杉皮がかたまりになっているものを発見しました。もしかするとリスの巣かもしれません。

エビフライ 島のアカマツはマツ材線虫病(松食い虫)により多くが枯れてしまっていますが、真鍋さんと生きているアカマツの回りを探したところ、エビフライを2個見つけることができました。これは、リスがアカマツのマツボックリを種を食べるためにかじったものです。リスのためにもアカマツには生き残って欲しいですね。(福島)



巣作り用皮剥ぎ(真鍋)



モミの枝にリスの巣？(福島)



エビフライにそっくり(真鍋)



2013/10/21 センサーカメラ撮影

ペカンの話

16日の例会は、ヒメコマツの観察会も併せて行われ、久しぶりに千葉エコロジーセンターの藤平量郎先生にお会いしました。藤平先生から、「ペカン」の実を戴きました。私は長年、木材の商いを生業としてきましたが、ペカンについて殆ど記憶に無く、ペカンが北アメリカ中南部原産のクルミ科の一種で食用として栽培されているが、日本には数えるほどしかないのだと教わりました。実は日本のクルミより、油分が多く濃厚な味です。少し戴いて家に帰りペカン！と殻を割った瞬間、30年も昔記憶がよみがえりました。シアトル駐在のお宅お邪魔した時の事、5~60年は経とうかと思われる大きなテーブルと飾り棚がありました。その板には、霧吹きをした様に細かい虫孔が全面にあり、それが何とも言えない趣があり、ウォールナットの感触も素晴らしいものでした。(これは、ペカンだよ。これだけの立派な家具はもう造れない。我が家の宝だよ。)と自慢しており、数年後帰国したときは、船便で日本に持ち帰られました。年を取るとどんどん記憶が失われる悲しい現実ですが、少しだけ感激の一瞬でした。(松田 弘義)



お知らせ

○4月定例活動日 4月20日（日）9時30分県民の森駐車場集合、年次総会、シイタケ・ヒラタケ本伏せ、森林整備（大雪被害の倒木処理、保護柵補修、伐採木処理等）、木工材造材、植物調査、野鳥調査など計画しています。多くの会員の参加を歓迎します。

平成26年度年次総会のご案内

日 時；4月20日（日）午前10時～

場 所；豊英島

議 題；25年度活動&会計報告、26年度活動計画&予算、役員改選。

欠席の方は事務局長宛てメール又はハガキで委任状を提出下さい。

○年会費納入

2013 年度会費を未納の方は早急に納入をお願いします。

振込はゆうちょ銀行の振替口座「00100-1-358774」、名義人「ちば千年の森をつくる会」にお願いします。 窓口手数料 120 円です。会財政もひっ迫しておりますのでよろしくお願いします。なお、2 年間未納の方は自然退会とさせていただきます。（事務局）

○「みどりの風・春号」（セブンイレブン広報誌3月発刊）に会の活動紹介記事が掲載されました。

3月活動日参加者に配布しましたが、6月までの参加の方には配布します。